



新しい年を迎えてのご挨拶

長崎県技術士会 会長 犬東 洋志

新年あけましておめでとうございます。今年が皆様にとって素晴らしい年になりますことを祈念いたします。そこには努力と精進が必要です。

昨年は、これまで会員の技術を思うひたむきな支援で何の心配も無く運営がなされてきました長崎県技術士会が思いもしない厳しい現状に直面しました。このような非常時には人間の本性が出るものでして一時は会の存続さえ放棄しなければならぬかと考えました。

しかし、技術者の心の拠り所として設立されたNERCが思いもよらない理解を示して下さって、事務局の看板を置いて頂くことができ危機を脱したのです。関係者の皆様にごここに改めてお礼を申し上げます。

会員の皆様には臨時総会を通じて説明致しますが、これまでとは異なり皆で分担して運営を行かなくてはなりません。ややもすれば、上部機構に属しているから下部組織は不必要との意見や、集まりそのものを否定する風潮があるのが残念ですが一人の力には限界があります。関係各位のご理解とご協力をお願いしておきます。

今年はNERCの協力を得て、これまで以上に研修・講習に重点をおいて運営して行きたいと思えます。官・大学・民からテーマを選択して話を聞くだけではなく現場を含めて企画してみます。その際一番の障害はやはり費用です。いずれ知恵が出ましようが皆様も考えて欲しいと思えます。

次に会員の増強です。まだ企業内技術士が居るでしょうし、県内でコンサル活動しておられる技術士の方に会員になって頂く事が出来ないか検討が必要です。このことは我々の技術力向上に大いに役立つものと考えています。

新年のマスコミ報道をみても景気に関して両極端を感じます。資源を持たない我が国にとって技術こそが最後の頼みの綱ではないでしょうか。大学が民営化される中でお互い協力し合える道を探して投資してゆくべきなのです。

今年一年ご壮健にてご活躍されんことを祈念して新年の御挨拶とします。

私の技術士業務

久保田 栄士 (機械部門) (久保田技術士事務所)

1. まえがき

私は定年後のことを考えて、在職中に宅建の資格を取りたいと思い、テキストを買い、勉強を始めましたが、周囲の人からそんなものは久保田さんの仕事に似合わないと言われて、やはり今までの経験を生かした、技術士が良かろうと思いついて、昭和63年に技術士事務所を開設しました。技術士試験の面接では試験官から技術士事務所を開いても何の仕事が出来ますかと言われました。自分の自覚としてもその通りだと思っていました。そこで私は仕事があれば何でもやると覚悟しました。その覚悟のおかげで、技術士事務所を開いてから平成16年の今まで15年間にわたり仕事を続けています。

2. 業務の形態

独立技術士には会社を自分で起こすか、コンサルタントとして中小企業の技術指導の2つがあると思います。会社を起こしても仕事が少なければ、従業員に給料を払うのが精一杯といって家内が反対でした。そこで私はコンサルタントとして独立し、仕事を始めました。

3. 業務の実態

仕事を始めるといっても何の当もないわけですから、困り果てたわけです。そこで昔勤めていた会社の知人に電話をして、何か仕事はないでしょうかと聞きましたら、いまちょうど良いものがあるとの事で直ぐに、技術顧問の契約を結び約5年間にわたりコンサルタント業務を続ける事が出来ました。当時は、まだ今のようにデフレでも不況でもなかったのが幸いしたと考えています。運の良さです。

その後、福岡の長友邦泰技術士から電話があり、日本政府の専門家としてインドネシアに技術指導に行きませんかとの話がありました。私は政府の専門家の登録もしていませんと言ったら、暫くして、又電話があり、それでもいいからと言うことでしたから、東京にゆき、通産省のagencyである海外貿易開発協会に出頭したら、偉い人が出てきて私の経歴、業務や英会話が出来ると聞きました。英会話は15年間の海外勤務がありますので仕事をするには差し支えありませんと答えたら、その場で専門家登録を済ませて、一年間インドネシア派遣がまきました。一年間の手当は1,300万円でした。技術指導の内容は生産性効率の向上でした。

私は機械技術士ですから経営は専門が違うわけですが、また何でもやろうの精神を発揮して、経営工学の芳賀三千億技術士に相談をした所、インダストリ、エンジニヤリングをやったが良いと言われたので、40冊ぐらい関係の本を買い勉強し、又トヨタ自動車の製造工程のジャストインタイムの実験を学ぶため、トヨタ工場に出張見学し、エンジニヤの意見を聞いて、インドネシアに出張しました。

現場では毎日自分から先頭にたち、一生懸命に調査研究して改善方法を指導し、生産性効率を2倍にすることが出来ました。この成果によりその後10年に亘り仕事をインドネシアで続けています。

4. むすび

昔の会社の人、技術士会の人に助けられて、15年間も技術士業務を続けて、元気で喜寿(77歳)を迎える事が出来ました。

技術者として考えること

古賀 政治 (技術士補・応用理学部門) (藤永地建株)

・はじめに

私は大学在学中に技術士補を取得し、藤永地建株式会社に技術者として入社しまして、今年で6年目になります。

業務は斜面災害対策、主に地すべり対策事業の調査や設計に従事しています。

今回本誌に執筆する機会を頂きましたが、まだまだ若輩

に皆様に「このようなことをやってきました」と言えることはあまりないように思いました。

そこで、今後「技術者としてどのように活動していくか」ということを2点記述しようと思います。

・発注者への提案を心がけること

前述したように私は調査業務に従事しています。これまでに比較的多く経験したのは、調査・設計・施工が実施される一連の業務にあつて、調査の比率が少ないと感じることでした。限られた予算内で調査目的を果たすのは技術者の責務ですが、調査をより詳細に行うことで、設計や施工の費用を縮減することができる場合も多いと思います。そのように判断した場合には、発注者へ提案することを心がけるようにしていますが、提案を先方に受け入れて頂く為にも、技術力やプレゼンテーション能力を高めていく必要性を常々感じております。

・説明責任を果たすこと

地すべり対策事業のほとんどは公共事業ですが、昨今、公共事業が国民の税金の無駄遣いであるかのような話題をマスメディア等で良く見聞きするようになりました。地すべりをはじめ土石流や落石などの斜面災害は、一度発生すれば人命を奪うこともあり、非常に恐ろしいものです。とりわけ長崎県は斜面が多いため、斜面災害対策は特に重要であり、無論公共性の高い事業であります。しかし、税金で事業を成り立たせている以上、民に事業の必要性を説明することもまた重要であると感じております。調査業務は、事業自体の流れを左右することも多いため、細心の注意を払って業務に携わり、他者への説明責任を果たすことが重要であると考えているところです。

・おわりに

今回、本誌に執筆させて頂く機会を与えていただいた長崎県技術士会の方々へ感謝申し上げます。

先日、「青年技術士懇談会」のホームページを拝見したところ、会員は「45歳未満」とありました。現在私は27歳であり技術士資格も取得していないので、まだまだ青年にも至っていないようです。今後、少しでも早く「青年技術士」の一員になれるよう努力を重ねていくことを宣言して筆をおきます。

「技術士会の夢」事務局便りに替えて、

長崎地区代表幹事 大橋 義美

昨年は、長崎県内で衝撃的なニュースが駆け巡り県民に多くの課題を投げ掛けた1年でした。本年は国見高サッカーの全国制覇に始まり明るい年明けとなりました。技術士会にとっても佳い年であることを願っています。

本稿は、「技術士会の夢」と題し日頃想っていることを記述してみたいと思います。

先ず夢の第1は会員の増強です。15年度に9名の新加入者があり現在98名となり、技術士については県内の登録者145名の内89名61%の加入率となります。この数値は九州7県の内会員数で4番、加入率で3番目です。加入率80%以上の会員数となるのが夢。

第2は総会・研修会への参加者の増員です。現在までの参加者は30名前後ですが、今回(1月31日開催)の新年会の参加予定者は42名と最高の参加者となりますが、60名以上の参加による開催が夢。

の身であり、これまで技術者として活動してきた中で、特第3は研修会開催回数の増加です。現在までは年間3回程の開催ですが、5~6回程の開催が夢。

第4は機関紙のページ数の増加です。現在は年4回、2ページでスタートしていますが、先ず3~4ページにするのが夢、そして、会員の研究発表等や機関紙を纏めた特集号(小冊子)の発行が夢。

第5は技術士会の社会参加です。県内の大学・研究機関・NPO・団体機関・企業等との連携による共催として、一般社会人も参加する研修会等の開催です。

以上に五つの夢を述べましたが、九州の各地区の活動状況から考え、会員一同協力して行けば長崎県でも実現できない夢ではないと考えます。とは言っても、この夢を現実なものにするのは簡単ではないと考えます。

実現のためには、会員同志が協力し運営する技術士会であり魅力のある会であることが必要で会員の全員参加の活動が重要と思います。

技術士会の発展と活発化のためには、社会的役割と地位の向上に向けた活動が必要と考えます。このためには会員数の増加と活動の数と質が重要かと考えます。

これらを実現するためには、先ず会員同志が話し合う場を数多く設けて行くことだと思います。例えば定期的に開催する月例会の開催、これは、前もって日程・会場を決めておき卓話を聞く・参加者間の意見交換等を行い、後は簡単な懇親会を行っても良いのではと考えます。場所は長崎・諫早・佐世保地区に分けて行い年数回は合同で実施する。世話役は持ち回りとする。等の案が考えられます。

会員の皆様は、夫々の組織内で忙しい日常業務を行われており、技術士活動になかなか時間が取れないといったことが悩みだと思います。私も同様ですが皆様と一緒に少しでも夢に近づきたいと考えますので皆様のご指導ご協力を宜しくお願い申し上げます。会の活性化へ向けたご提案をお待ちしています。

最後になりましたが、(社)日本技術士会九州支部長として会の発展にご尽力いただきました田中譲治先生が逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

本号は新年会に合わせ発行しました。昨年は本機関紙にとって創刊の年であり、本年はより充実した機関紙に成長する年にしていきたいと思っております。この機関紙が会員の活発な意見交換の場になり、技術士会員同志の連携強化、会員増強などの役に立てばと考えます。この為には、会員皆様のご協力が是非とも必要です。この機関紙に多くの皆様の投稿原稿をお待ちいたします。

本年が会員皆様にとって佳い年でありますように祈念いたします。

会員皆様の要望、意見、各種情報等は下記までお寄せください。長崎県技術士会に関する連絡先

西日本菱重興産株式会社土木部 大橋 義美
〒852-8136

長崎市神の島町3丁目9番9号

TEL 095-865-5200

FAX 095-865-5880

E-mail: yoshimi.oohashi@west-ryoko.co.jp